

特集 新しい都市のデザイン

新しい都市のデザイン 特集の趣旨

二十一世紀に入って早七年が過ぎた。この間、大都市では人口増が続くものの地方では既に人口減少社会を迎えており、少子高齢化、自然災害や犯罪の増加、地球環境問題など、地域が解決しなければならぬ課題が多様化してきている。このような中で、都市デザインづくりにおいては、行政主導から、市民参加、さらには市民・企業・大学・行政等の協働による取り組みが、既に全国各地で始まっている。これらの活動を見ていると、次のような点で明らかに転換期が来ていると考えられる。

一つ目は、エリアの考え方についてである。ビジットジャパンに代表されるような観光への取り組みや、環境問題については、都道府県、あるいは市町村といった行政単位だけでは語れないケースが増えてきている。一方、町並み保存や地域の防犯・防災、あるいは最近注目されているエリアマネジメントなどの取り組みは、市町村よりさらに小さな地区単位で取り組まれているケースが多くなっている。

二つ目は、デザインのあり方そのものについてである。都市づくり本来の目的といえる居住環境や市街地環境の維持・向上を目指す上で、単体の建物や地域のゾーニングといったハード、あるいは視覚的なデザインだけでは語れなくなってきたことがある。そこで、イベントの開催や花の設置・植え替えといった空間の活用方法や運営など、ソフトのデザインを含めた取り組みが幾つも出てきている。

例えば下の写真に示した久屋大通は、戦災復興によって名古屋都心に創出された百メートル道路の一つである（ちなみに、スペーシアの事務所はこの久屋大通に面している）。久屋大通は都心における带状の豊かなオープンスペースであり、防火帯の役割も果たしている。ハード面をみると、昭和三〇年代当時は、緑豊かな芝生の空間であったが、その後、バス



過去

芝生広場が広がっていた昭和32年頃の久屋大通
出典：名古屋テレビ塔連合発展会「ひさや」1975.1

ターミナルや地下駐車場が整備され、豊かに生い茂った並木と人工物が同居する空間となっている。この人工的な空間が高低差や段差を生み出し、歩行者にとって使いやすい空間となっているところがある。都心の魅力アップのためには、交通戦略を含めたデザインのあり方が求められる。

一方、ソフト面では、この豊かなオープンスペースの歩道部分を活用し、二〇〇〇年より官民が連携してオープンカフェに取組んでいる（本誌ラバダブでも昨年、一昨年などで紹介している）。一昨年には、行政主導から地元主導にシフトし、飲食サービスの提供が可能になるなど、着実に成果を上げてきている。

このような動向をみると、これからの都市のデザインでは、様々な主体が協力し合って都市の方向性を定め、地域の特徴を活かして創意工夫のまちづくりに取り組むことが重要であるといえる。そこで、スペーシアでは今回の特集テーマを

「新しい都市のデザイン」とした。

本特集で取り上げるテーマについて

スペーシアはこれまで、東海地方を舞台として様々な地域でまちづくりを支援してきている。創立当初と比べると単なる計画づくりにとどまらず、実践的な取り組みを支援させていただく機会が増えてきている。そこで、スペーシアの最近の取り組みや、あるいはまちづくりにおける近年の動向をふまえ、特集として取り上げるテーマを右下の枠の中に列記する。ここで紹介する取り組み等の中には、現在進行中のものもあり、都市のデザインとして結論に達していないかもしれないが、今後の我々の活動に期待して、目を通していただければ幸いである。

本特集で取り上げるテーマ

◇エリアでの取組み

- ・名古屋駅周辺の変貌と展開
- ↳ 名駅のまちづくりにむけて
- ・名駅ちよいち乗りバス運行実験
- ↳ 名古屋駅前エリアのさらなる魅力向上への試走
- ・那古野下町衆、参上!!!
- ↳ 円頓寺・四間道界隈のまちづくりの芽
- ・岐阜市の駅前再開発
- ↳ 拠点再開発を契機とした都市再生
- ・甕 勝川浪漫
- ↳ 勝川地区第一種市街地再開発事業 完成!!!

◇超高層住宅に対する考察

- ・超高層マンションの魅力
- ↳ 名古屋を中心に多数の物件が計画中

◇まちづくりイベントに対する考察

- ・まちづくりイベント者
- ↳ まちづくりにつながる興味深い取組み



現在

豊かに生い茂った並木とバスターミナルや駐車場などの人工物が同居する
現在の久屋大通（2007年12月撮影）

名古屋都心の久屋大通公園の空間構成の変遷